

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社 景平不動産鑑定
赤 (県) - 1	福岡県	福岡第 2	氏名	不動産鑑定士 景平 良邦

鑑定評価額	5,310,000 円	1 m ² 当たりの価格	6,650 円 / m ²
-------	-------------	-------------------------	--------------------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 4 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 4 年 7 月 11 日	(6) 路線価	[令和 4 年 1 月] 路線価又は倍率	円 / m ²
(2) 実地調査日	令和 4 年 7 月 5 日	(5) 価格の種類	正常価格	倍率種別		1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	田川郡赤村大字赤字居屋敷 4 3 4 7 番				地積 (m ²)	799	法令上の規制等
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	都計外	
	ほぼ整形 1 : 1.5	住宅 W 2	中規模一般住宅が建ち並び既成住宅地域	北 4 m 村道、東側道	水道	油須原 1.2 km	(その他)	
(2) 近隣地域	範囲	東 100 m、西 150 m、南 100 m、北 100 m		標準的使用	戸建住宅地			
	標準的画地の形状等	間口 約 20 m、奥行 約 30 m、		規模	600 m ² 程度、形状 長方形			
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない	街路	4 m 村道	交通施設	油須原駅 南西方 1.2 km	法令 都計外 規制
	地域要因の将来予測	人口減少、高齢化等による過疎化が進行し、コロナ禍もあるが周辺市町と比較して地価は下がりきった状況にあり下落に歯止めがかかる傾向にある。						
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	角地 0.0		
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	6,650 円 / m ²					
	収益還元法	収益価格	/ 円 / m ²					
	原価法	積算価格	/ 円 / m ²					
	開発法	開発法による価格	/ 円 / m ²					
(6) 市場の特性	同一需給圏は赤村及び周辺市町の戸建住宅・農家住宅を中心とする住宅地域である。需要者の中心は、当村に地縁を有する者がほとんどであり、さらに人口の減少、高齢化等から新規の需要は少ない。村内の不動産取引の大部分は、公共用地の買収、農地及び林地の取引であり、民間の土地取引は少なく、需要者も農家の分家及び親族等で地縁の選好性が強い。土地の取引価格は、700 m ² 程度で500万円程度が中心である。							
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	農家住宅を中心に形成された当該地域では、自用の利用を目的とする古い建物が殆どで、アパート等は見受けられず収益性を追求して、取引価格が決定する状況には至っていない。賃貸市場は未成熟なままであることから、収益還元法の適用は断念した。よって比準価格を重視し、不動産の需給動向及び地域の推移、周辺基準地の比較検討のうえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。							
(8) 公価表示価格と格しをた	代表標準地 標準地 標準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内 街路 標準 交通 補正 画地 行政 その他	地 街路 域 交通 要 環境 行政 其他
	公示価格 円 / m ²	[] / 100	100 []	100 []	[] / 100			
(9) 指か定ら基の準検地討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内 街路 標準 交通 補正 画地 行政 その他	地 街路 域 交通 要 環境 行政 其他
	前年指定基準地の価格 円 / m ²	[] / 100	100 []	100 []	[] / 100			
(10) 対年象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 6,700 円 / m ²		価 変 動 形 状 成 要 因 の	(一 般 的)	景気はコロナ禍の緩和のもとで緩やかに持ち直している。地価は回復基調にあり、村内の地価も下落に歯止めがかかりつつある。			
	- 2 基準地が共通地点 (代表標準地等と同一地点) である場合の検討 代表標準地 標準地 標準地番号 公示価格 円 / m ²			(地 域)	既存の農家住宅を主体とする地域で、価格形成要因に格別な変動はなく、需要の減退は継続している。			
	変動率	年間 -0.7 %	半年間 %	(個 別 的)	個別的要因に変動はない。			

3 試算価格算定内訳

(1)比準価格算定内訳											
NO	取引事例番号	所在及び地番並びに「住居表示」等	取引時点	類型	地積 (㎡)	画地の形状	接面道路の状況	主要交通施設の状況	法令上の規制等		
a	川崎04C-11506	田川郡川崎町		更地	()	ほぼ長方形	西8 m県道 南2 m 角地		(都) (80,200)		
b	川崎04C-11508	田川郡川崎町		更地	()	ほぼ長方形	北西6 m県道 南西4 m 角地		(都) (80,200)		
c	大任04C-10801	田川郡大任町		建付地	()	不整形	南東6 m町道		準都計 (70,200)		
d	大任04C-10802	田川郡大任町		更地	()	ほぼ長方形	北東7.5 m県道 南東7 m 角地		準都計 (80,200)		
e	-				()						
NO	取引価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	建付減価の補正	標準化補正	推定価格 (円/㎡)	地域要因の比較	推定標準価格 (円/㎡)	個別的要因の比較	査定価格 (円/㎡)	
a	() 6,414	100 [100.0]	[99.6] 100	100 [/]	100 [103.0]	6,202	100 [93.9]	6,605	街路 0.0 交通・接近 0.0 環境 0.0	6,610	
b	() 5,085	100 [100.0]	[99.8] 100	100 [/]	100 [103.0]	4,927	100 [78.8]	6,253	画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	6,250	
c	() 7,429	100 [100.0]	[99.2] 100	100 [100.0]	100 [85.5]	8,619	100 [121.1]	7,117	街路 0.0 交通・接近 0.0 環境 0.0	7,120	
d	() 5,616	100 [100.0]	[99.3] 100	100 [/]	100 [92.7]	6,016	100 [92.9]	6,476	画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	6,480	
e	()	100 []	[] 100	100 []	100 []		100 []		[100.0] 100		
NO	ア事情の内容	イ月率変動率	ウ標準化補正の内訳			エ地域要因の比較の内訳					
a	正常	% / 月 -0.06	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +4.0	交通・接近 -5.0	環境 -5.0	画地 +3.0	行政 0.0	その他 0.0
b	正常	% / 月 -0.05	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +2.0	交通・接近 +3.0	環境 -25.0	画地 +3.0	行政 0.0	その他 0.0
c	正常	% / 月 -0.08	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +2.0	交通・接近 -5.0	環境 +25.0	画地 -14.5	行政 0.0	その他 0.0
d	正常	% / 月 -0.08	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +4.0	交通・接近 -6.0	環境 -5.0	画地 -7.3	行政 0.0	その他 0.0
e		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境	画地	行政	その他
才比準価格決定の理由							〔比準価格： 6,650 円/㎡〕				

(2)積算価格算定内訳										
(2)-1 原価法が適用できない場合その理由			農家住宅地のため							
(2)-2 造成宅地内等に存し原価法の適用が可能な場合の価格										
造成事例番号		-		所在及び地番						
素地の取得価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	素地の補修正後の価格 (円/㎡)	造成工事費 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	造成工事費の補修正後の価格 (円/㎡)			
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$				
付帯費用 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	付帯費用の補修正後の価格 (円/㎡)	有効宅地化率で除した価格 (円/㎡)	地域要因の比較	個別的要因の比較	再調達原価 (円/㎡)			
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$		(%)	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$				
熟成度修正 [] / 100				積算価格 円/㎡						
内訳										
素地	事情の内容	月率変動率 %/月	造成工事費	標準化補正		月率変動率 %/月	付帯費用	標準化補正		月率変動率 %/月
地域要因の比較			街路	交通・接近	環境	行政	その他			

(3)収益価格算定内訳								
(3)-1 収益還元法(直接法)の適用又は収益還元法が適用できない場合の理由								
直接法	総収益 (円)	総費用 (円)	純収益 (円)	建物に帰属する純収益 (円)	土地に帰属する純収益 (円)	未収入期間修正後の純収益 (円)	還元利回り (r-g) () %	
	収益価格	円 (円/㎡)						
	収益価格が試算できなかった場合その理由							
収益還元法が適用できない場合その理由	自用の戸建住宅が中心の農家住宅地域で、賃貸物件はほとんどなかった。							

以下、収益還元法適用の場合は、宅地 - 4 (3) - 2 へ

(4)開発法による価格算定内訳						
(4)-1 開発法の適用		する	しない	開発法を適用する場合の理由		
収入の現価の総和 (円)	支出の現価の総和 (円)	投下資本収益率 (%)	販売単価(住宅) (円/㎡)	分譲可能床面積 (㎡)	建築工事費 (円/㎡)	延床面積 (㎡)
開発法による価格		円 (円/㎡)				

以下、開発法適用の場合は、宅地 - 6 (4) - 2 へ

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社 景平不動産鑑定
赤（県） - 2	福岡県	福岡第 2	氏名	不動産鑑定士 景平 良邦

鑑定評価額	3,490,000 円	1 m ² 当たりの価格	4,750 円 / m ²
-------	-------------	-------------------------	--------------------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 4 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 4 年 7 月 11 日	(6) [令和 4 年1月]	円 / m ²
(2) 実地調査日	令和 4 年 7 月 5 日	(5) 価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価				

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	田川郡赤村大字内田字揚田 4 5 1 番 3			地積 (m ²)	734	法令上の規制等						
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	都計外 (その他)						
	台形 1.5 : 1	住宅 W 1	農地の中に農家住宅等が見られる住宅地域	北 9 m 村道	水道	赤 1.2 km							
(2) 近隣地域	範囲	東 100 m、西 200 m、南 100 m、北 100 m			標準的使用	戸建住宅地							
	標準的画地の形状等	間口 約 35 m、奥行 約 20 m、規模			700 m ² 程度、形状 ほぼ台形								
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない	街路	9 m 村道	交通施設	赤駅北方 1.2 km 法令 都計外 規制						
	地域要因の将来予測	人口減少、高齢化等による過疎化が進行し、コロナ禍もあるが周辺市町と比較して地価は下がりきった状況にあり下落に歯止めがかかる傾向にある。											
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	ない							
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	標準価格	4,750 円 / m ²										
	収益還元法	収益価格	/ 円 / m ²										
	原価法	積算価格	/ 円 / m ²										
	開発法	開発法による価格	/ 円 / m ²										
(6) 市場の特性	同一需給圏は赤村及び香春町、周辺市町の戸建住宅・農家住宅を中心とする住宅地域である。需要者の中心は、当村に地縁を有する者がほとんどであり、さらに人口の減少から新規の需要は少ない。村内の不動産取引の大部分は、公共用地の買収、農地及び林地の取引であり、民間の土地取引は少なく、需要者も農家の分家及び親族等で地縁的選好性が強い。土地の取引価格は、700 m ² 程度で 350 万円程度が中心である。												
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	農家住宅等を中心に形成された当近隣地域では、自用使用を目的とする建物がほとんどで、アパート等は見受けられず収益性を追求して、取引価格が成立する状況には至っていない。賃貸市場は未成熟なままであることから、収益還元法の適用は断念した。よって標準価格を重視し、不動産の需給動向及び地域の推移、周辺基準地価格との比較検討のうえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。												
(8) 公規価示準格	代表標準地 標準地	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他	
	公示価格	円 / m ²	[]	100	100	[]							
			100	[]	[]	100							
(9) 指か定ら基の準検地討	指定基準地番号	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他	
	前年指定基準地の価格	円 / m ²	[]	100	100	[]							
			100	[]	[]	100							
(10) 対年ら象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 4,800 円 / m ²		- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討		価格形成要因	変動状況	要因	景気はコロナ禍の緩和のもとで緩やかに持ち直している。地価は回復基調にあり、村内の地価も下落に歯止めがかかりつつある。	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他
	代表標準地 標準地	標準地	時点修正	標準化補正									
	公示価格	円 / m ²	[]	100	100	[]							
			100	[]	[]	100							
	変動率	年間	-1.0 %	半年間	%								

3 試算価格算定内訳

(1)比準価格算定内訳														
NO	取引事例番号	所在及び地番並びに「住居表示」等	取引時点	類型	地積 (㎡)	画地の形状	接面道路の状況	主要交通施設の状況	法令上の規制等					
a	川崎04C - 11508	田川郡川崎町		更地	()	ほぼ長方形	北西6 m県道 南西4 m 角地		(都) (80,200)					
b	大任04C - 10802	田川郡大任町		更地	()	ほぼ長方形	北東7.5 m県道 南東7 m 角地		準都計 (80,200)					
c	直方04C - 10594	直方市		更地	()	不整形	東4 m市道		(都)1住居 (60,160)					
d	福智04C - 11308	田川郡福智町		建付地	()	ほぼ整形	南西5 m町道 北西2 m 準角地		準都計 (80,200)					
e	-				()									
NO	取引価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	建付減価の補正	標準化補正	推定価格 (円/㎡)	地域要因の比較	推定標準価格 (円/㎡)	個別的要因の比較	査定価格 (円/㎡)				
a	() 5,085	$\frac{100}{[100.0]}$	[99.8] 100	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[103.0]}$	4,927	$\frac{100}{[99.9]}$	4,932	街路 0.0 交通・接近 0.0 環境 0.0	4,930				
b	() 5,616	$\frac{100}{[100.0]}$	[99.3] 100	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[92.7]}$	6,016	$\frac{100}{[121.0]}$	4,972	画地 0.0 行政 0.0	4,970				
c	() 3,268	$\frac{100}{[100.0]}$	[100.0] 100	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[93.0]}$	3,514	$\frac{100}{[75.9]}$	4,630	その他 0.0	4,630				
d	() 4,550	$\frac{100}{[100.0]}$	[100.0] 100	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{100}{[101.0]}$	4,505	$\frac{100}{[100.3]}$	4,492	その他 0.0	4,490				
e	()	$\frac{100}{[]}$	[] 100	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		$\frac{100}{[]}$		[100.0] 100					
NO	ア事情の内容	イ月率変動率	ウ標準化補正の内訳						エ地域要因の比較の内訳					
a	正常	% / 月 -0.05	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -3.0	交通・接近 +3.0	環境 0.0	画地 +3.0	行政 0.0	その他 0.0	街路 0.0	交通・接近 -6.0	環境 +30.0
b	正常	% / 月 -0.08	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -1.0	交通・接近 -6.0	環境 +30.0	画地 -7.3	行政 0.0	その他 0.0	街路 0.0	交通・接近 -6.0	環境 -15.0
c	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -5.0	交通・接近 -6.0	環境 -15.0	画地 -7.0	行政 0.0	その他 0.0	街路 0.0	交通・接近 -5.0	環境 +10.0
d	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -4.0	交通・接近 -5.0	環境 +10.0	画地 +1.0	行政 0.0	その他 0.0	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0
e		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境	画地	行政	その他	街路	交通・接近	環境
才比準価格決定の理由								〔比準価格： 4,750 円/㎡〕						

(2)積算価格算定内訳									
(2)-1 原価法が適用できない場合その理由			農家住宅地のため						
(2)-2 造成宅地内等に存し原価法の適用が可能な場合の価格									
造成事例番号		-		所在及び地番					
素地の取得価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	素地の補修正後の価格 (円/㎡)	造成工事費 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	造成工事費の補修正後の価格 (円/㎡)		
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			
付帯費用 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	付帯費用の補修正後の価格 (円/㎡)	有効宅地化率で除した価格 (円/㎡)	地域要因の比較	個別的要因の比較	再調達原価 (円/㎡)		
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$		(%)	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			
熟成度修正 [] / 100				積算価格 円/㎡					
内訳									
素地	事情の内容	月率変動率	造成工事費	標準化補正		付帯費用	標準化補正		月率変動率
		% / 月						% / 月	
地域要因の比較			街路	交通・接近	環境	行政	その他		

(3)収益価格算定内訳							
(3)-1 収益還元法(直接法)の適用又は収益還元法が適用できない場合の理由							
直接法	総収益 (円)	総費用 (円)	純収益 (円)	建物に帰属する純収益 (円)	土地に帰属する純収益 (円)	未収入期間修正後の純収益 (円)	還元利回り (r-g) () %
						()	() %
	収益価格	円 (円/㎡)					
収益価格が試算できなかった場合その理由							
収益還元法が適用できない場合その理由		自用の戸建住宅が中心の農家住宅地域で、賃貸物件はほとんどなかった。					

以下、収益還元法適用の場合は、宅地 - 4 (3)-2 へ

(4)開発法による価格算定内訳						
(4)-1 開発法の適用		する	しない	開発法を適用する場合の理由		
収入の現価の総和 (円)	支出の現価の総和 (円)	投下資本収益率 (%)	販売単価(住宅) (円/㎡)	分譲可能床面積 (㎡)	建築工事費 (円/㎡)	延床面積 (㎡)
開発法による価格		円 (円/㎡)				

以下、開発法適用の場合は、宅地 - 6 (4)-2 へ

鑑定評価書（令和 4 年地価調査）

Table with 5 columns: 基準地番号, 提出先, 所属分科会名, 業者名, 有限会社 景平不動産鑑定. Values: 赤（県） - 3, 福岡県, 福岡第2, 氏名, 不動産鑑定士 景平 良邦

Table with 2 columns: 鑑定評価額, 2,620,000 円, 1㎡当たりの価格, 3,800 円/㎡

1 基本的事項

Table with 6 columns: (1)価格時点, (2)実地調査日, (3)鑑定評価の条件, (4)鑑定評価日, (5)価格の種類, (6)路線価, [令和 4年1月], 円/㎡, 1.1 倍, 更地としての鑑定評価

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

Main table with 10 rows (1) to (10) detailing the valuation process. Includes location (田川郡赤村大字赤字大原屋敷2023番1), area (690㎡), and valuation methods (取引事例比較法, 比準価格 3,800 円/㎡, etc.).

(1) 比準価格算定内訳										
NO	取引事例番号	所在及び地番並びに「住居表示」等	取引時点	類型	地積 (㎡)	画地の形状	接面道路の状況	主要交通施設の状況	法令上の規制等	
a	田川04C - 10402	田川市		建付地	()	不整形	東6 m市道 西2 m 二方路		(都) 1住居 (60,200)	
b	川崎04C - 11508	田川郡川崎町		更地	()	ほぼ長方形	北西6 m県道 南西4 m 角地		(都) (80,200)	
c	香春04C - 10401	田川郡香春町		建付地	()	不整形	東3 m町道		準都計 (70,200)	
d	福智04C - 11308	田川郡福智町		建付地	()	ほぼ整形	南西5 m町道 北西2 m 準角地		準都計 (80,200)	
e	-				()					
NO	取引価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	建付減価の補正	標準化補正	推定価格 (円/㎡)	地域要因の比較	推定標準価格 (円/㎡)	個別的要因の比較	査定価格 (円/㎡)
a	() 4,347	100 [100.0]	[100.0] 100	100 [100.0]	100 [100.0]	4,347	100 [120.7]	3,601	街路 0.0 交通・ 接近 0.0	3,600
b	() 5,085	100 [100.0]	[99.8] 100	100 [/]	100 [103.0]	4,927	100 [125.2]	3,935	環境 0.0 画地 0.0	3,940
c	() 2,670	100 [100.0]	[99.4] 100	100 [100.0]	100 [70.0]	3,791	100 [103.8]	3,652	行政 0.0	3,650
d	() 4,550	100 [100.0]	[100.0] 100	100 [100.0]	100 [101.0]	4,505	100 [115.0]	3,917	その他 0.0	3,920
e	()	100 []	[] 100	100 []	100 []		100 []		[100.0] 100	
NO	ア事情の内容	イ月率変動率	ウ標準化補正の内訳				エ地域要因の比較の内訳			
a	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -1.0	交通・接近 +6.0	環境 +15.0		
			画地 0.0	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 0.0			
b	正常	% / 月 -0.05	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -1.0	交通・接近 +10.0	環境 +15.0		
			画地 +3.0	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 0.0			
c	正常	% / 月 -0.06	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -5.0	交通・接近 +15.0	環境 -5.0		
			画地 -30.0	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 0.0			
d	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -2.0	交通・接近 +2.0	環境 +15.0		
			画地 +1.0	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 0.0			
e		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境		
			画地	行政	その他	行政	その他			
才比準価格決定の理由							〔比準価格： 3,800 円/㎡〕			

(2)積算価格算定内訳										
(2)-1 原価法が適用できない場合その理由			農家住宅地のため							
(2)-2 造成宅地内等に存し原価法の適用が可能な場合の価格										
造成事例番号		-		所在及び地番						
素地の取得価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	素地の補修正後の価格 (円/㎡)	造成工事費 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	造成工事費の補修正後の価格 (円/㎡)			
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$				
付帯費用 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	付帯費用の補修正後の価格 (円/㎡)	有効宅地化率で除した価格 (円/㎡)	地域要因の比較	個別的要因の比較	再調達原価 (円/㎡)			
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$		(%)	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$				
熟成度修正 [] / 100				積算価格 円/㎡						
内訳										
素地	事情の内容	月率変動率 %/月	造成工事費	標準化補正		月率変動率 %/月	付帯費用	標準化補正		月率変動率 %/月
地域要因の比較			街路	交通・接近	環境	行政	その他			

(3)収益価格算定内訳							
(3)-1 収益還元法(直接法)の適用又は収益還元法が適用できない場合の理由							
直接法	総収益 (円)	総費用 (円)	純収益 (円)	建物に帰属する純収益 (円)	土地に帰属する純収益 (円)	未収入期間修正後の純収益 (円)	還元利回り (r-g) () %
						()	() %
	収益価格	円 (円/㎡)					
収益価格が試算できなかった場合その理由							
収益還元法が適用できない場合その理由		自用の戸建住宅が中心の農家住宅地域で、賃貸物件はほとんどなかった。					

以下、収益還元法適用の場合は、宅地 - 4 (3)-2 へ

(4)開発法による価格算定内訳						
(4)-1 開発法の適用		する	しない	開発法を適用する場合の理由		
収入の現価の総和 (円)	支出の現価の総和 (円)	投下資本収益率 (%)	販売単価(住宅) (円/㎡)	分譲可能床面積 (㎡)	建築工事費 (円/㎡)	延床面積 (㎡)
開発法による価格		円 (円/㎡)				

以下、開発法適用の場合は、宅地 - 6 (4)-2 へ

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社 景平不動産鑑定
赤(県) 5 - 1	福岡県	福岡第 2	氏名	不動産鑑定士 景平 良邦

鑑定評価額	3,880,000 円	1 m ² 当たりの価格	10,200 円 / m ²
-------	-------------	-------------------------	---------------------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 4 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 4 年 7 月 11 日	(6) [令和 4 年1月]	円 / m ²
(2) 実地調査日	令和 4 年 7 月 5 日	(5) 価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価				

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	田川郡赤村大字赤字居屋敷 4 7 8 6 番			地積 (m ²)	380	法令上の規制等
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	都計外
	ほぼ整形 1:2.5	店舗 W 2	小売店舗、一般住宅等が混在する地域	北 6.5 m 村道	水道	油須原 200 m	(その他)
(2) 近隣地域	範囲	東 200 m、西 450 m、南 50 m、北 100 m		標準的使用	低層店舗地		
	標準的画地の形状等	間口 約 12 m、奥行 約 25 m、		規模	300 m ² 程度、形状 長方形		
	地域的特性	特記 特にない		街 6.5 m 村道	交通 油須原駅 南西方 200 m	法令	都計外
	地域要因の将来予測	人口減少、高齢化等による過疎化が進行し、コロナ禍もあるが周辺市町と比較して地価は下がりきった状況にあり下落に歯止めがかかる傾向にある。					
(3) 最有効使用の判定	低層店舗地				(4) 対象基準地の個別的要因	ない	
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	10,200 円 / m ²				
	収益還元法	収益価格	/ 円 / m ²				
	原価法	積算価格	/ 円 / m ²				
	開発法	開発法による価格	/ 円 / m ²				
(6) 市場の特性	同一需給圏の範囲はおおむね、赤村及びその周辺市町の小売店舗等の立地が可能な熟成度の比較的低い商業地域。需要者の中心は、店舗併用住宅等を求める地縁を有する個人等が想定される。当該圏域は、現在、新興の大型商業施設の進出、人口減少等の影響から、厳しい商況にあり、次第に繁華性等が低位へ移行するものと予測される。土地取引の中心価格帯は、規模及び繁華性等がまちまちであり、かつ取引件数が少ないこと等から把握し難い状況である。						
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	本件近隣地域は、一般住宅等が混在する普通商業地域である。比準価格については、事例収集の困難性等から同一需給圏の範囲を広く設定して事例を採用したが、各事例の軽重を吟味して試算しており、説得力を有する価格が求められたものと思料する。収益価格については、地域性等を反映して、賃貸市場が未成熟であること等の理由により試算し得なかった。よって、地域の実情等を勘案し、比準価格を重視し、鑑定評価額を上記のとおり決定した。						
(8) 公規価示標準価格と格しをた	代表標準地 標準地 標準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内 街路 標準化 交通 環境 補正 画地 行政 その他
	公示価格 円 / m ²	[] 100	100 []	100 []	[] 100		
(9) 指か定ら基の準検地討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / m ²)	内 街路 標準化 交通 環境 補正 画地 行政 その他
	前年指定基準地の価格 円 / m ²	[] 100	100 []	100 []	[] 100		
(10) 対年ら象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 10,300 円 / m ²		価格形成要因	(一般的要因)	景気はコロナ禍の緩和のもとで緩やかに持ち直している。地価は回復基調にあり、村内の地価も下落に歯止めがかかりつつある。		
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 代表標準地 標準地 標準地番号 公示価格 円 / m ²			(地域要因)	私鉄駅近隣の商住混在の地域であるが、価格形成要因に格別な変動はなく需要の減退は継続している。		
	変動率 年間 -1.0 % 半年間 %			(個別的要因)	個別的要因に変動はない。		

3 試算価格算定内訳

(1) 比準価格算定内訳													
NO	取引事例番号	所在及び地番並びに「住居表示」等	取引時点	類型	地積 (㎡)	画地の形状	接面道路の状況	主要交通施設の状況	法令上の規制等				
a	直方04C - 11106	直方市		更地	()	ほぼ長方形	南西14 m市道		(都) 1住居 (60,200)				
b	田川04C - 10904	田川市		更地	()	ほぼ整形	北7 m市道 南西6 m 南5.7 m 三方路		(都) (80,200)				
c	福智04C - 11304	田川郡福智町		建付地	()	ほぼ台形	北西11 m町道 南西7 m 準角地		準都計 (80,200)				
d	香春04C - 10798	田川郡香春町		更地	()	長方形	西5 m町道		準都計 (70,200)				
e	-				()								
NO	取引価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	建付減価の補正	標準化補正	推定価格 (円/㎡)	地域要因の比較	推定標準価格 (円/㎡)	個別的要因の比較	査定価格 (円/㎡)			
a	() 11,679	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[100.0]}{100}$	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[88.4]}$	13,212	$\frac{100}{[137.1]}$	9,637	街路 0.0 交通・接近 0.0 環境 0.0	9,640			
b	() 11,641	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[100.0]}{100}$	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[74.4]}$	15,647	$\frac{100}{[137.7]}$	11,363	画地 0.0 行政 0.0	11,400			
c	() 14,230	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[100.0]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{100}{[96.9]}$	14,685	$\frac{100}{[143.2]}$	10,255	その他 0.0	10,300			
d	() 12,086	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[99.3]}{100}$	$\frac{100}{[/]}$	$\frac{100}{[100.0]}$	12,001	$\frac{100}{[129.5]}$	9,267	その他 0.0	9,270			
e	()	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		$\frac{100}{[]}$		[100.0] 100				
NO	ア事情の内容	イ月率変動率	ウ標準化補正の内訳						エ地域要因の比較の内訳				
a	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +5.0	交通・接近 -14.0	環境 +38.0	画地 -11.6	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 +10.0
b	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 0.0	交通・接近 -15.0	環境 +35.0	画地 -25.6	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 +20.0
c	正常	% / 月 0.00	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 +4.0	交通・接近 -15.0	環境 +35.0	画地 -3.1	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 +20.0
d	正常	% / 月 -0.06	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -2.0	交通・接近 -11.0	環境 +35.0	画地 0.0	行政 0.0	その他 0.0	行政 0.0	その他 +10.0
e		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境	画地	行政	その他	行政	その他
才比準価格決定の理由							〔比準価格： 10,200 円/㎡〕						

(2)積算価格算定内訳												
(2)-1 原価法が適用できない場合その理由			既成市街地のため									
(2)-2 造成宅地内等に存し原価法の適用が可能な場合の価格												
造成事例番号	-			所在及び地番								
素地の取得価格 (円/㎡)	事情補正	時点修正	素地の補修正後の価格 (円/㎡)	造成工事費 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	造成工事費の補修正後の価格 (円/㎡)					
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$			$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$						
付帯費用 (円/㎡)	標準化補正	時点修正	付帯費用の補修正後の価格 (円/㎡)	有効宅地化率で除した価格 (円/㎡)	地域要因の比較	個別的要因の比較	再調達原価 (円/㎡)					
	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$		(%)	$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$						
熟成度修正 [] / 100				積算価格 円/㎡								
内訳												
素地	事情の内容	月率変動率	造成工事費	標準化補正			月率変動率	付帯費用	標準化補正			月率変動率
		% / 月					% / 月					% / 月
地域要因の比較			街路		交通・接近		環境		行政		その他	

(3)収益価格算定内訳							
(3)-1 収益還元法(直接法)の適用又は収益還元法が適用できない場合の理由							
直接法	総収益 (円)	総費用 (円)	純収益 (円)	建物に帰属する純収益 (円)	土地に帰属する純収益 (円)	未収入期間修正後の純収益 (円)	還元利回り (r-g) () %
						()	() %
	収益価格		円 (円/㎡)				
収益価格が試算できなかった場合その理由							
収益還元法が適用できない場合その理由		当該地域は賃貸用不動産が見当たらず、賃貸市場は成熟していないため、この方式からの検討は断念したものである。					

以下、収益還元法適用の場合は、宅地 - 4 (3)-2 へ

(4)開発法による価格算定内訳						
(4)-1 開発法の適用		する	しない	開発法を適用する場合の理由		
収入の現価の総和 (円)	支出の現価の総和 (円)	投下資本収益率 (%)	販売単価(住宅) (円/㎡)	分譲可能床面積 (㎡)	建築工事費 (円/㎡)	延床面積 (㎡)
開発法による価格		円 (円/㎡)				

以下、開発法適用の場合は、宅地 - 6 (4)-2 へ